

カメラが捉えた2020年の観光業界



全旅連青部は官相に面会し、業界支援やGo To延長などを求める要請書を提出した(12月5日付)



赤羽国交相は記者会見を開き、国内旅行の需要喚起事業「Go Toトラベルキャンペーン」を7月22日から開始することを発表。旅行者が守るべきエチケットを説明し、感染対策の順守を呼び掛けた(7月25日付)

GoToキャンペーン開始、観光業界に回復の兆し



全旅連は第98回全国大会をインターネットのライブ配信形式で開催。多田計介会長は「事業の存続に、強い意志を持ち続けよう」と組合員に呼び掛けた(10月3日付)



日本旅館協会は通常総会を開き、任期満了に伴う役員改選で北原茂樹氏に代わる新会長に浜野浩二氏を選出した(6月27日付)



観光庁の蒲生篤実長官が就任後初となる専門紙向けの記者会見を行い、Go Toキャンペーンによる国内旅行の需要喚起、富裕層を含むインバウンド誘客に向けた環境作りなどを語った(8月29日付)



民族共生象徴空間(ウボロイ)開業記念式典
政府が北海道白老町に整備した「民族共生象徴空間(愛称・ウボロイ)」が、7月12日に正式開業した。記念式典には菅義偉官房長官(当時)や鈴木直道北海道知事が出席し、アイヌ民族文化財団のメンバーによる古式舞踊「イヨマンテ(クマの豊送りの踊り)」が披露された(7月18日付)



日本観光振興協会などは「ツurisME XPO」を開催。3日間、約5万4千人が来場した(11月14日付)
本社が2019年度「人気温泉旅館ホテル200選」を選定発表式を開催。関係者約500人が参集した(1月25日付)



全国旅行業協会、国内旅行の活性化と観光立国の実現を目指す「第15回国内観光活性化フォーラムinくも」とを熊本で開催。「熊本県送客キャンペーン」を実施し、会員が総計、熊本県へ10万人を送ることを決定した(2月22日付)



宮城県内の企業や団体、自治体などで作る「宮城ワーケーション協議会」が発足。余暇を楽しまながらテレワークで仕事をするワーケーションを推進し、新型コロナウイルス感染症拡大で打撃を受けた県内観光の活性化や移住・定住の促進につなげる(10月3日付)



東北デスティネーションキャンペーン(DC)推進協議会とJTB東日本が共同会見を開き、来年4〜9月に開催する東北DC開催までの取り組みを発表。応援サポーターを募集し、東北6県の観光コンメンツを紹介する記事を掲載するなど、機運醸成を図る(11月7日付)

東京オリ・パラは2021年に延期へ



東京オリンピックの聖火が宮城県東松島市の航空自衛隊松島基地に到着し、大会組織委員会の森喜朗会長らが見守る中、野村忠宏さん(柔道)、吉田沙保里さん(レスリング)の手により聖火台に点火された。聖火はその後、リレーリンドスタートに臨む予定だったが、五輪延期の決定を受けしばらく福島県で保管されることになった(3月28日付)

コロナ禍に怯まず、業界の未来を見据えて